

平成22年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成22年5月27日 ラッセホール）

- ・平成21年度事業報告及び収支決算
- ・平成22年度会費
- ・平成22年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する提案
- ・理事の補欠選任

(2) 理事会

① 第88回理事会（平成22年5月27日 ラッセホール）

- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第89回理事会（平成23年3月25日 神戸国際会館）

- ・職員給与規則の一部改正
- ・平成22年度事業計画の変更
- ・平成22年度収支予算の補正
- ・平成22年度事業実施状況
- ・平成23年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

第88回企画委員会（平成22年7月20日 兵庫県民会館）

- ・平成22年度事業について
- ・公益法人改革に係るワーキンググループの設置・検討について
- ・今後の瀬戸内海環境保全普及活動推進事業について

第89回企画委員会（平成23年3月17日 兵庫県民会館）

- ・平成22年度事業計画の変更
- ・平成22年度収支予算の補正
- ・協会のあり方検討について
- ・平成23年度事業計画案
- ・平成23年度収支予算案

② 編集委員会

第1回編集委員会（平成22年7月7日 兵庫県民会館）

- ・総合誌「瀬戸内海」第60号の企画・編集について

第2回編集委員会（平成22年12月7日 兵庫県民会館）

- ・総合誌「瀬戸内海」第61号の企画・編集について

③賛助会員事業部会

第1回賛助会員事業部会（平成22年8月17日 神戸市勤労会館）

- ・平成22年度賛助会員に関する事業等について

第2回賛助会員事業部会（平成22年10月8日 神戸市勤労会館）

- ・平成22年度研修会企画案について
- ・賛助会員へのアンケート結果について

事業部会委員：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)
(メンバー) いであ(株)、(株)大塚製薬工場、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4) 瀬戸内海環境保全協会あり方検討会

瀬戸内海環境保全協会では、従前より事業の見直し並びに会費の引き下げを図ってきたが、さらに抜本的に事業を見直していくため、役員及び企画委員構成団体の職員を中心とする検討会を設置し、今後の事業等のあり方を検討した。

第1回（平成22年12月6日 神戸市勤労会館）

- ・検討会設置運営要領（案）について
- ・あり方検討会の進め方について

第2回（平成22年12月27日 神戸市勤労会館）

- ・課題整理と課題への対応策について

第3回（平成23年1月26日 神戸市勤労会館）

- ・今後の協会のあり方について

検討会参加団体：8府県、3市、6団体 計17団体

京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、
大阪市、神戸市、北九州市、
兵庫県漁業協同組合連合会、山口県漁業協同組合、香川県漁業協同組合連合会、
愛媛県漁業協同組合連合会、(社)岡山県環境衛生協会、(財)広島県環境保健協会

(5) 参事・事務局長並びに担当課長会議

第1回（平成23年3月23日 ひょうご女性交流館）

- ・平成22年度事業実施状況について
- ・平成22年度収支予算の補正について
- ・協会のあり方検討について
- ・平成23年度事業計画案について
- ・平成23年度収支予算案について

2. 専門委員の委嘱

平成22年度企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

谷口 靖彦 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長

森川 格	兵庫県農政環境部環境管理局水質課長
佐伯 佳彦	広島県環境県民局環境部環境保全課長
森 敏樹	香川県環境森林部環境管理課長
末松 裕嗣	大分県生活環境部環境保全課長
小西 治樹	大阪市環境局環境保全部土壌水質担当課長
天野 孝司	神戸市環境局環境創造部主幹（水環境保全担当課長）
川浦 成介	東大阪市環境部公害対策課長
矢田 友昭	下関市環境部環境政策課長
高木 繁行	山口県漁業協同組合総務指導部次長
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
内田 靖人	（社）大阪エイフボランタリーネットワーク事務局長
薦田 直紀	（財）広島県環境保健協会地域活動支援センター長

(2)調査委員（11名）

吉田 敏臣	大阪府環境農林水産総合研究所長
園田 竹雪	（財）ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター長
島田 美昭	和歌山県環境衛生研究センター所長
岸本 寿男	岡山県環境保健センター所長
日原 康生	広島県立総合技術研究所保健環境センター長
調 恒明	山口県環境保健センター所長
庄野 修	徳島県保健環境センター所長
中林 正一	香川県環境保健研究センター所長
土井 光徳	愛媛県立衛生環境研究所長
平田 輝昭	福岡県保健環境研究所長
淵 祐一	大分県衛生環境研究センター所長

(3)編集委員（10名）

櫻井 正昭	（財）自然公園財団専務理事
篠原 靖	関西電力（株）環境室環境技術グループマネジャー
住田 典子	（財）広島県環境保健協会地域支援課長
反田 實	兵庫県農林水産技術総合センター水産技術センター所長
泥 俊和	（株）神戸製鋼所環境防災部次長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
橋本 浩一	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室長補佐
森 敏樹	香川県環境森林部環境管理課長
森川 格	兵庫県農政環境部環境管理局水質課長
鷺尾 圭司	水産大学校理事長

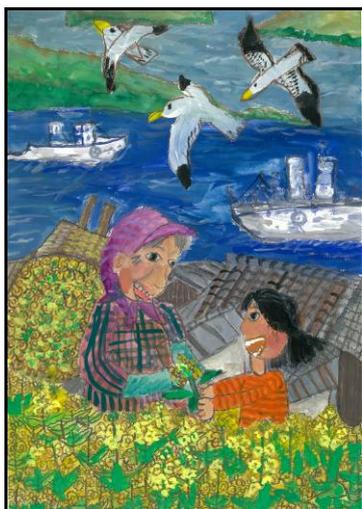
II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1)平成22年度(第38回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開(期間:平成22年6月1日～6月30日)

瀬戸内海の住民等に対して、瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品の中から優秀作品等を選定し、最優秀作品をもとに環境保全月間ポスターを作成し、配布した。

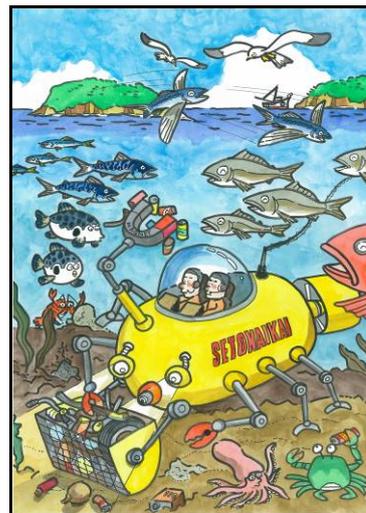
・平成22年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの優秀作品



最優秀作品
新居里紗さん(徳島県)



優秀賞(子供部門)
三浦 友里江さん(徳島県)



優秀賞(一般部門)
中村 稔さん(佐賀県)

(2)瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展の実施

香川県が直島他6島で開催する瀬戸内国際芸術祭(期間:平成22年7月19日～10月31日)に合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示した。

場所:香川県高松市 サンポート高松 デックスギャラリー

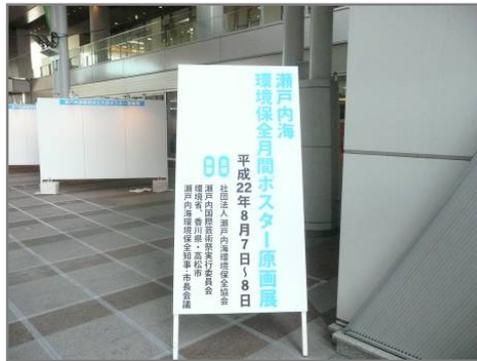
時期:平成22年8月7日(土)～8日(日)

展示作品数:平成13年度～22年度 最優秀・優秀作品 30点

平成13年度～22年度 佳作作品 20点



ポスター原画展の会場



ポスター原画展の案内看板

(3)平成23年度(第39回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募

23年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

- ①募集期間：平成22年7月12日～11月26日
- ②ポスター選定委員会の開催：平成23年2月24日
- ③応募数 子供部門：119
一般部門：134 総数：253



ポスター選定委員会

(4)瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

①瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

- ・日時：平成22年10月12日～14日
- ・場所：岡山シティホテル厚生町（岡山市）
- ・講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

瀬戸内海の環境保全行政の動向

講師 環境省閉鎖性海域対策室室長補佐 橋本 浩一

里海の基本理念ー太く、長く、滑らかな物質循環ー

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

排水処理技術の概要

講師 (財)国際エメックスセンター 梅本 諭

栄養塩類が閉鎖性海域の水環境に与える影響

講師 京都大学大学院農学研究科教授 藤原 建紀

海底ごみ収集活動の紹介

講師 (財)水島地域環境再生財団研究員 塩飽 敏史

- ・現地研修、NPO等との意見交換・情報交換

瀬戸内海における海底ごみ対策とアマモ場再生の取り組み

ー寄島・笠岡を事例としてー

海底ごみ回収の取り組みの紹介

寄島町漁業協同組合 大室 欣久

アマモ場再生の取り組みの紹介

環境カウンセラー 浅野 甘喜夫

- ・ 班別討議及び全体討議
- ・ 参加者人数：21名（8府県11市2団体）



基調講義 松田治 広島大学名誉教授



現地研修：海底ごみ活動者との意見交換

②地区別普及活動推進事業の実施

瀬戸内海沿岸域自治体及び協会が主体となって地区別に学校等と協力し、環境教育・環境学習の観点から、子どもたち（小・中学生）が実地に自然を観察しながら海辺や水辺の自然について理解を深めることができるよう、体験学習を実施した。（27府県市）

- ・ 海辺、水辺教室
- ・ 子どもたちを対象とした海や川の体験学習
- ・ 自然観察会
- ・ ボランティア等の人材育成



なぎさの楽校（大阪府）



サポーター養成講座（広島市）

③指導者のための瀬戸内海の環境学習マニュアルの作成

昭和52年度から実施してきた地区別普及活動推進事業を、さらに効果的かつ計画的に実施するために平成21年度に策定した人材育成事業に係る中期計画に沿って、人材育成に資することを目的とした「指導者のための瀬戸内海の環境学習マニュアル」を作成した。環境学習マニュアルは、関係府県市及び環境学習に関係する環境活動団体等へ配布した。

環境学習マニュアルの作成に当たっては、学識者・地方公共団体・NPO等の環境教育、環境学習の経験者による検討委員会を設置し検討した。

検討委員の構成：学識者 4名、自治体関係者 6名、計10名
委員長 神戸大学教授 川井 浩史

開催日：第1回 平成22年12月9日
第2回 平成23年2月21日



環境学習マニュアル

(5)平成22年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

瀬戸内海沿岸地域における環境保全思想の普及及び住民参加の推進を図るため、住民活動団体のメンバーによるワークショップを開催した。

- ・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、（財）広島県環境保健協会
（社）瀬戸内海環境保全協会
- ・日時：平成22年9月6日～7日
- ・場所：尾道国際ホテル（広島県尾道市）
- ・基調講演：「中瀬戸地域における環境・まちづくり教育活動」
講師 国立広島商船高等学校情報工学科教授 岐美 宗
- ・情報提供、交流：地域を知る・学ぶ・考えるー尾道学研究会の取り組み
尾道学フィールドワーク
講師 尾道学研究会企画事務局 林 良司
- ・体験交流・意見交流：各府縣市連合会の実践活動報告
 - ①泉南支部の活動状況について
大阪府 大阪エイフボランティアネットワーク
 - ②「藤井川の夕べ」イベントからごみ減量化へ
広島県 藤井川を守る会
 - ③忘れ去られた岩国往来の復元と環境整備
山口県 岩国往来まちづくり協議会
 - ④行橋市簗島海岸の環境美化について
福岡県 (株)放作
 - ⑤「猿喰新田・汐抜き穴」周辺環境保全活動
北九州市 猿喰新田・汐抜き穴を保存する会
- ・参加人数：延べ113名



近光章議長(瀬戸内海環境保全地区組織会議)挨拶



フィールドワーク

(6) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

瀬戸内海沿岸の事業所、団体等が加入している賛助会員による環境保全、環境創造に向けた取り組みを実施した。

- ・平成22年度瀬戸内海環境保全月間行事(期間：22年6月1日～6月30日)への積極的な参画
月間ポスター等の掲示による普及啓発
月間中の環境行事の実施及び取りまとめ
- ・平成23年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募、広報への協力
- ・総合誌「瀬戸内海」への寄稿
- ・賛助会員研修会の開催

賛助会員へのアンケート結果を踏まえ、要望の多かったテーマ(環境創造・修復事業、新エネルギー(水素)の活用、排水処理、生物多様性と企業活動)に関する研修会を企画し、開催した。

①第1回研修会(環境修復技術と新エネルギーの活用)

日時：平成22年11月19日

講義・見学：石炭灰造粒物を用いた底質改善技術の概要

太田川の実証実験現場(中国電力㈱ 本社)

水素エネルギーを利用した自動車の開発(マツダ㈱ 本社)

参加人数：22名(自治体より2県3市参加)

②第2回研修会(水の有効利用と企業活動における生物多様性の保全活動)

日時：平成23年3月9日

講義・見学：水の有効利用と排水処理、ビオトープによる生物生態系の保全活動

キリンビール神戸工場

参加人数：46名(自治体より3県6市参加)



第1回研修会(太田川の実証実験現場)



第2回研修会(キリンビール神戸工場)

(7) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行った。

(8) 瀬戸内海再生に向けた取り組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等の豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策の推進が総合的、計画的に図られるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して取り組みを進めた。

(9) 各種環境保全事業への参加・協力

①環境イベント等への参加・協力

- ・第五管区海上保安本部が中心となって実施している大阪湾クリーン作戦（期間：22年6月1日～6月30日）に協力し、大阪湾クリーン作戦のポスターを環境月間ポスターと共に正会員、賛助会員へ配布した。
- ・生物多様性条約第10回締約国会議関連事業の「COP10 生物多様性交流フェア」（期間：22年10月23日～29日、名古屋市）に瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と合同で、瀬戸内海の「美しさ」「豊かさ」をキーワードに広報を行った。
- ・「せとうち里海産学官連携フォーラム～兵庫県環境研究センターからの発信～（平成23年1月24日（月）、神戸市ラッセホール）」への後援

②会員等主催事業への支援

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため、パネルの貸出など、会員等が主催する各種環境保全事業の支援を行った。

- ・愛媛県総合科学博物館企画展「なぎさの博物館・砂浜」へのパネル（瀬戸内海の環境保全、海洋ごみ）の貸し出し

③環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO/NPOが実施するイベント等に協力するなど連携・支援を行った。

- ・第2回里海創生シンポジウム「瀬戸内海の未来を考えるシンポジウム（平成22年10月1日（金）、香川県高松市かがわ国際会議場）」（主催：NPO法人環境創生研究フォーラム）への後援

(10) K J B瀬戸内基金の管理・運営

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO/NPOを支援するため、フィリップモリス ジャパン株式会社が提唱する「Keep Japan Beautiful」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体（NGO/NPO）等に対して、その活動や事業を助成・支援する目的で設立した「K J B（Keep Japan Beautiful）瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

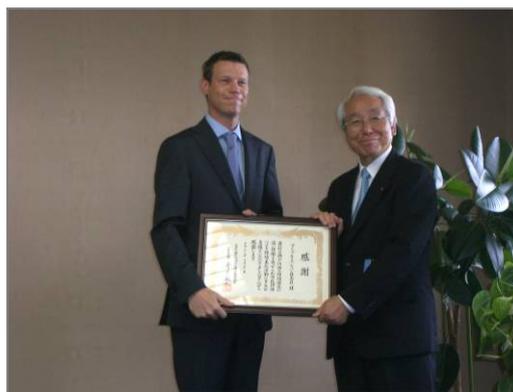
応募総数：56団体

採択総数：28団体（6府県11市）

助成総額：4,000,000円



フレデリック・デ ウィルドゥ・フィリップモリスジャパン社長が井戸会長（兵庫県知事）を表敬訪問



井戸会長からフレデリック・デ ウィルドゥ社長へ感謝状贈呈

2. 環境保全活動事業への助成

漁業団体、環境衛生団体が実施する環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。
(15団体)

3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

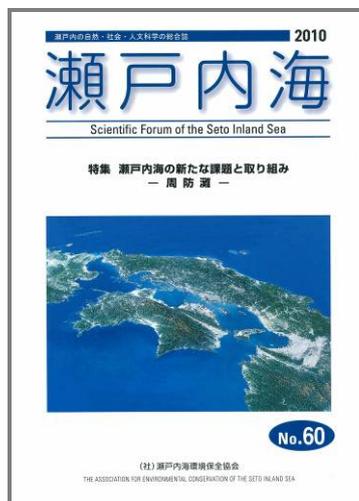
瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として環境省の委託により平成10年度に構築した「せとうちネット」の管理・運営を行うとともに、情報収集を行い、データの追加・更新を行った。

（本業務は、環境省からの委託業務が終了のため平成22年度限り。）

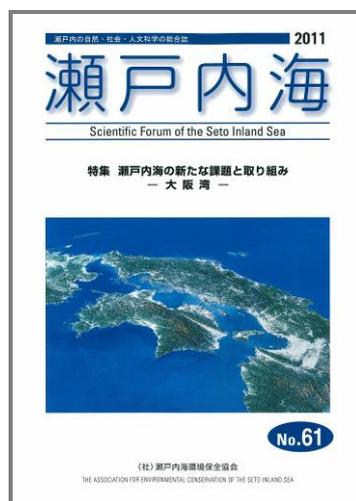
(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行し、関係団体等へ配布するとともに、PDFデータとして、協会ホームページに掲載した。

- ・発行回数：年2回（9月、3月）
- ・平成22年9月 第60号（1,100部、CD-ROM）
- ・平成23年3月 第61号（1,100部、CD-ROM）



「瀬戸内海」第60号



「瀬戸内海」第61号

(3)資料集「瀬戸内海の環境保全－平成22年度版－」の発行及び配布
昭和53年度から継続して瀬戸内海に関連する各種資料を年度ごとにとりまとめている、「瀬戸内海の環境保全資料集」（平成22年度版）を発行、配布した。

- ・無償配布先：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布先：会員以外（冊子のみ）



資料集「瀬戸内海の環境保全－平成22年度版－」

(4)協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等を更新するとともに、新たに「KJB瀬戸内基金」の情報を発信した。

4. 調査・研究事業

(1)平成22年度里海の創生の支援に向けた検討調査業務（環境省委託）

閉鎖性海域においては、著しい汚濁は改善されたものの、水産資源を含む生態系の劣化が進んでいるため、21世紀環境立国戦略では、多様な魚介類等が生息する自然の恵み豊かな「里海」の創生が、今後1、2年で重点的に着手すべき環境政策として明記されている。

環境省は、平成20年度から里海の創生の支援に向けた調査検討を行っており、当協会は平成20、21年度に引き続き受託し、里海の創生に関する事業を行った。本検討調査業務は、平成22年度で終了したため、3ヶ年の検討調査業務の成果として、里海づくりの手引書の発行と環境省ホームページである里海ネットを更新した。

1) 里海創生活動の支援強化に向けた検討

- ①類型毎の里海創生計画案の作成、②里海づくりの手引書の作成、③他地域の参考となる里海創生活動事例の選定に向けた検討、④里海創生に向けた持続性のある支援体制の検討

2) 里海創生に資する情報の共有と発信

- ①第10回生物多様性締約国会議：COP10におけるサイドイベントの開催（平成22年10月21日（木）、名古屋国際会議場）
- ②国際里海ワークショップの開催（平成22年12月20日（月）、金沢市文化ホール）
- ③里海ネットの強化・拡充、

3) 里海創生支援検討会の設置・運営

本業務を円滑に進めていくため、学識者等の専門的な見地からの指導、助言を得る必要があることから「里海創生支援検討会」を設置し、検討した。

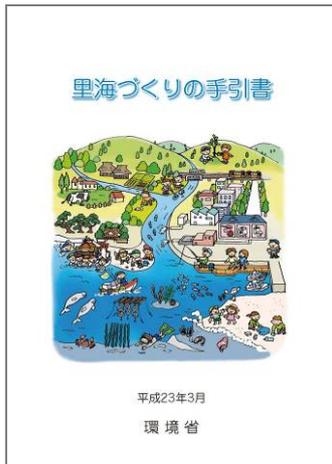
検討会：委員長 生態工学研究所代表 須藤 隆一

検討委員の構成：学識者 8名

開催日：第1回 平成22年7月22日

第2回 平成22年9月7日

第3回 平成22年12月19日



里海づくりの手引書



里海ネットのトップページ（環境省）

(2) 海域の物質循環健全化計画検討（播磨灘北東部地域検討）業務（環境省委託）

瀬戸内海では、高度経済成長期に陸域からの栄養塩類の負荷が増加したことによる赤潮の発生等の環境問題が生じた。その後、排水規制等の種々の規制により海域の栄養塩類濃度は低下したが、海域の栄養塩類のバランスが損なわれているため、播磨灘北東部地域における、陸海域一体となった栄養塩類の循環の把握、問題事象の改善、軽減化するための栄養塩類の管理方策を検討することを目的とする。

平成22年度は、播磨灘北東部地域の物質循環に係る自然的・社会的状況の収集整理と、河川水の広域的拡散状況調査と栄養塩類の形態別動向調査を実施した。調査の結果、陸域では「管理状況の変化によるため池の栄養塩濃度の増加」、港湾内（浅場）では「陸域からの栄養塩類の流入と海水の滞留による環境悪化」、沿岸～沖合域では「陸域や隣接する湾灘からの栄養塩類の流入の減少による基礎生産力の低下」等の問題により、「陸域・海域の栄養塩類の偏在化」が問題事象とされた。

平成23年度は、平成22年度の検討結果をもとに「事業場排水の栄養塩類濃度季節別変動管理試験」と、水質シミュレーションによる「加古川と泊川河口沖水路を利用した港湾内と沿岸～沖合域の海水交換の促進」の効果の検証および、対策検討のための情報収集を実施する予定である。

なお、本業務を円滑に進めていくため、学識者等の専門的な見地からの指導、助言を得る必要があることから「地域検討委員会」を設置し、検討した。

- ・委員会：委員長 京都大学大学院農学研究科 教授 藤原 建紀
 検討委員の構成：学識者 5名、関係行政機関 8名 計13名
- ・開催日：第1回 平成22年10月 5日
 第2回 平成22年12月14日
 第3回 平成23年 2月23日

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力した。なお、研究会議が行った主な事業は次のとおりである。

(1) 「瀬戸内海研究フォーラムin徳島」の開催に対する支援・協力。

テーマ：新しい瀬戸内海の自然・文化とのかかわりー環境首都“とくしま”からの発信ー
日 時：平成22年8月26日～28日
場 所：徳島大学
参加者：延べ250名



瀬戸内海研究フォーラムin徳島



ポスターセッションの表彰式

(2) 瀬戸内海研究会議ワークショップの開催

瀬戸内海の各地で町歩き、聖地巡礼、花いっぱい運動等のスモールツーリズムが展開されていることから、これらの分野で独創的な活動をされている若手研究者とともに、瀬戸内海の風土力を再認識し、瀬戸内海の環境保全に資することを目的としたワークショップを開催した。

- ・日時：平成22年11月17日（水）
- ・場所：神戸市 三ノ宮研修センター
- ・テーマ：多様なツーリズムをひきおこす瀬戸内海の風土力
- ・参加者：54名

(3) 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成事業

- ・委託者：瀬戸内海環境保全知事・市長会議
- ・内 容：瀬戸内海研究会議の会員に対し、瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成を行った。また、瀬戸内海環境保全知事・市長会議に対して報告・提言を行った。

(4) 大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る研究助成事業の事務委託

- ・委託者：大阪湾広域臨海環境整備センター
- ・内 容：大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る研究の助成の募集を行い、選考委員会（企画委員会）による選考等を行った。

6. 国際的な活動への参加と協力

「IGES-EMECS-APNシンポジウム『気候変動と沿岸域管理』～適応策を考慮した沿岸域統合管理に向けて～」（平成22年10月8日、神戸市よみうり神戸文化ホール）への後援を行った。

7. その他関連事業

(1) 国に対する提案

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に提案した。

提案事項：

1. 瀬戸内海環境保全・再生のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業の推進
2. 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
4. 生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
5. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と栄養塩類の適正な管理等を通じた海域の物質循環健全化に関する調査研究
6. 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
7. 瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
8. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
9. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動

提案日：平成22年6月14日

提案先：民主党兵庫県総支部を通じて民主党本部へ提案

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との連携

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

賛助会員研修会に参加した事業所に対し、協会のパンフレットとともに賛助会員の申込書を添え、加入促進を図った。